

# 鹿角市中心市街地活性化

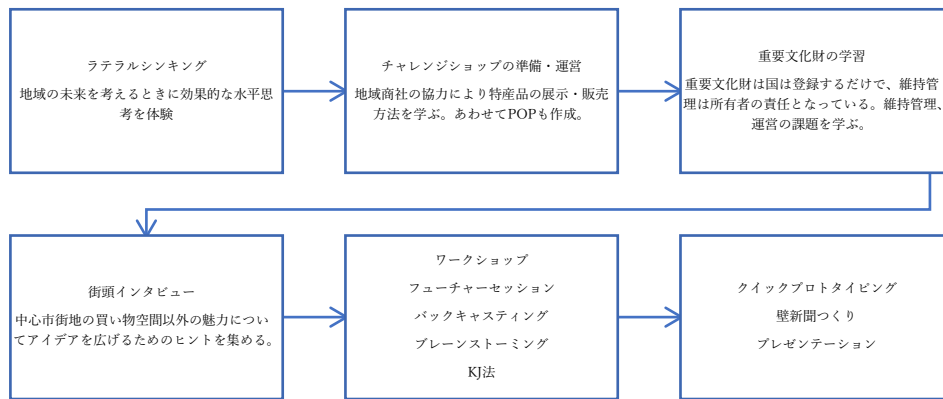
- プログラム概要 : 鹿角市中心市街地の魅力を考えるワークショップ  
 実習先 : 秋田県鹿角市中心市街地  
 実習先情報 : 鹿角市の人口減少とともに中心市街地の賑わいが失われている。来街者を増やす手立てが求められている。  
 参加人数 : 本学8名、鹿角市中高生8名  
 学部学科 : 日本文学文化学科、日本語コミュニケーション学科、政治学科、経済学科、経営学科、教育学科  
 実習期間 : 令和6年8月5日～14日  
 本学担当教員 : 小暮真人(経営学科)

## 1. 趣旨

令和5年の発展FSでは「鹿角市の中心市街地の魅力」として、買い物以外に様々な区民の居場所が挙げられた。具体的にはファミリー世帯、高齢者、若者など多様な世代が時間を共有できるイベントや機能である。また、意外と鹿角市の特産品が道の駅以外では手に入りにくいという声も聞かれた。令和6年度は、ワークショップの成果を実際に行動に移し、さらに深みのあるセッションを行い、中高生及び学生のふるさと意識、地域貢献意識の向上を目指した。

## 2. 学習内容

今年度は、鹿角市の中高生と武蔵野大学の学生が中心市街地のイベントとして鹿角市の特産品を販売する「チャレンジショップ」を実施することとした。合わせて、重要文化財「旧関善酒店」でもインターンシップ、市民への街頭インタビューを行い、中心市街地の買い物だけではない新たな機能、可能性について市長、市民に提案した。



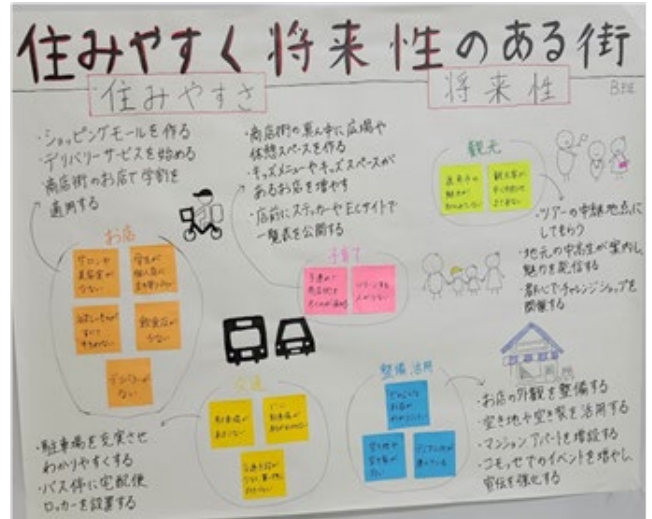
### 3. 新たな居場所の提案

#### A班 リピーターいらっしやい計画

A班は、恵まれた自然の中に鹿角市の中心市街地があることに着目し、サバイバルゲームを提案している。サバイバルゲームで内外から人を集め、商店街ではゲーム参加者、ゲームに参加しない人も「寄り道」できるスペース、キッチンカーを市民が運営するという市民総出のイベントである。また、ゲーム参加者、来街者をリーズナブルに受け入れるために、空き家を活用することも提案している。

#### B班 住みやすく将来性のある街

B班は市民の声を受け止めて対話を深めた結果、市民の住みやすさとその将来性という切り口で整理している。住みやすさは買い物と交通の利便性、子育て環境で決まる。市民にとっては個店よりもショッピングモールの方が利用しやすく、個店は店構え、雰囲気から入りにくいという意見である。個店は客を店内に呼び込むのではなく、デリバリー、キッチンカーなどアウトリーチを提案している。また、空き店舗を活用した子育て環境の整備を提案している。



## C班 秋田といえば鹿角

C班は、鹿角市の知名度は低い、秋田といえば鹿角をイメージする人が増えるようにするにはどうしたら良いかという切り口からフィルムコミッション活動の強化を提案している。映画ダイヤモンドは鹿角市の中滝ふるさと学舎で撮影され、その後ロケ地ツーリズムで訪れる人が増えている。そこで、中心市街地をロケ地とした映画を誘致し、鹿角市の知名度を高め、上映後は聖地巡礼の観光客を増やすことで活性化を図るというアイデアである。

## D班 鹿角観光都市化計画

D班は、鹿角市にある地域資源を地域の強みとして生かすことができていないという課題に対して、地域資源の掘り起こし、ブラッシュアップを提案している。そのベースには、地域の人口と経済と環境の循環という考え方がある。大湯環状列石、日本酒、ジビエ、シャッター、フォトスポットなど内外にアピールできるものがある。どばんくんクッキーにストーリー性をもたせる、地酒とジビエを組み合わせる、シャッターのままでなくアートを描くなど水平的思考によるユニークな提案となっている。

